

水郡線全線開通90周年記念イベント

「童話ト駅弁ト列車ト」出発進行!!

ニワトコ会員が列車の旅楽しむ



◆杉上佐智枝さん

早稲田大学第一文学部卒業後、2001年日本テレビにアナウンサーとして入社。2023年6月から社長室サステナビリティ推進事務局・経営戦略局、R&Dラボ在職。2児の母。絵本専門士、紙芝居文化の会、「旅する絵本プロジェクト」(日テレ共創ラボ)などで活躍。アナウンサー時代には「おもいっきりPON!」「皇室日記」「情報ライブミヤネ屋」「キューピー3分クッキング」など多数の番組に出演。



一般社団法人ニワトコ(矢崎潤子代表理事)主催による水郡線全線開通90周年記念イベント「童話ト駅弁ト列車ト」は11月9日、磐城棚倉駅から水戸駅間往復で運行され、子どもから大人まで参加者80

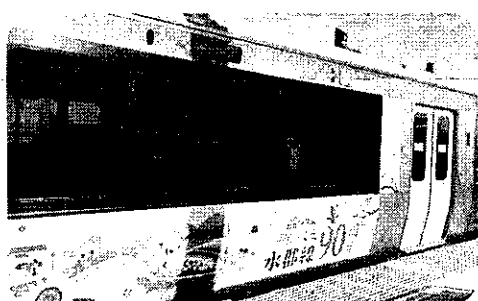
人が駅弁や紙芝居、特別講演などを楽しみながら約5時間の列車の旅を満喫した。棚倉町、埴町、矢祭町、鮫川村、白河市の後援、早稲田大学生物同好会OBのゆかいな仲間たちの協力。県南サポート事業。

◆唐池恒二さん

1977年京都大学法学部卒業後、日本国有鉄道(国鉄)に入社し、1987年の国鉄分割民営化に伴い、九州旅客鉄道(JR九州)に入社。「ゆふいんの森」などのD&S列車の運行、外食事業の立て直しに尽力。2009年から社長、2013年10月に運行を開始し世界的な注目を集めたクルーズトレイン「ななつ星in九州」は、その企画立案から運行まで陣頭指揮にあたった。2016年には同社の悲願だった株式上場を実現。2023年より現職。著書多数。県南地域との縁は、28歳で国鉄バス棚倉営業所長に着任した。



今回のイベントはニワトコが実施している江戸期古民家雑学講座の拡大版として雑学講座で学ぶ地元の子や家族、ニワトコ会員のために企画したもの。90周年記念ラッピングを施した特別列車は午後12時10分に磐城棚倉駅を出発。磐城埴町と東館駅から参加者を乗せ80人の参加者を乗せ水戸駅に向かった。乗車後参加者は東京と新潟から新幹線荷物輸送「はこびユン」p lusバス(白棚線)で運ばれた駅弁でお腹を満たした。車内で開かれた開会式では、矢崎理事が「水郡線に乗って駅弁を食べ、ステキな話を聞いていつもと違う世界を体験して」とあいさつしたあと、この日提供された駅弁と土産品について説明。「子どもたちにとって列車に乗ったらやっぱりおやつ袋。そして昔子どもだった人た



今回は在フランス大使館総料理長のセバスチャン・マルタン氏手づくりのピンクボール。本来は欧米の子どもたちがクリスマスに食べる真っ白なスノーボールだが、それに矢祭町のラズベリーを入れたらピンクになった変化した球のお菓子。そしてこじはんに「こんにやくごろごろ詰めしべんと」を用意した。こじはんは、昔から地元農家が農作業の合間に小腹がすいてきた午後3時頃に食べるご飯の

こと。お家に帰ったら召し上がれるよう矢祭町のニワトコメンバーが商品開発した。新たな名物になるようご賞味いただきたい」とあいさつした。

引き続き元日本テレビアナウンサーで現在日本テレビ社長室サステナビリティ推進事務局に在籍し絵本専門士の資格を持つ杉上佐智枝さんが「いろんな虫のうんち」「オオムラサキの一生」の紙芝居、ヘルマン・ヘッセ短編小説「少年の日の思い出」を朗読。九州旅客鉄道相談役の唐池恒二さんが自身が手掛けた豪華列車運行などについて話す特別講演のほか、参加者全員によるジャンケン大会で盛り上がり、子どもにも勝者5人



また、東日本旅客鉄道の水郡線統括セントーラ重雄副長がフルト演奏で旅に音楽の楽しさを添えたほか、アゲハチョウ類研究家の中江信さんが貴重な昆虫の標本箱を手に車内を回り参加者に覗かせた。



前夜祭で水郡線全線開通90周年祝う

イベント前日の8日午後6時からルネサンス棚倉レストランで約50人が出席して前夜祭が催された。

日本航空国際客室乗務員の福田薫さんの司会進行で進められ、はじめに矢崎代表理事が「水郡線は90年も走ってきたんだなあと感じた深いものがある。私も水郡線に乗って棚倉高校に通った。水郡線



を、無くしたくない、少しでも残したいなどの思いから企画した。イベントを楽しんで、朗読を披露する元日本テレビアナウンサーの杉上佐智枝さんが「水郡線全線開通90周年誕生日をお祝いさせていただけるとをとても楽しみにしていた。私は絵本の活動や読み聞かせの活動を日本テレ

ビのサステナビリティ活動として行っている。2人目の子どもの産休に入った時に自分にできることで社会に恩返しをしていきたいと決意し、文部科学省の絵本専門士の資格を取得し、日本テレビ社員が業務として読み聞かせを行う前例がない立ち位置にいる。今回は車掌マイクでしかありませんが、できる限りハートフルな声で、ごくワクワクするシチュエーションにこの数

カ月胸をときめかせていた。みなさんにどこまで満足いただけるか心配だが、ヘルマンヘッセルの少年の日の思い出という名作の朗読と来年昆虫の素晴らしい本拠地ができるというところで虫の話を中心に紙芝居を選んできた。子どもにも大人にも楽しんでもらえるよう頑張りたい」、九州旅客鉄道の唐池恒二相談役が「16年前JR九州社長になり会長そして今は相談役を務めている。社長時代に世界的な注目を集めた列車「ななつ星」を作った男。なぜそんなことができたのか。それは棚倉の経験が私に対して強く影響した。40年前、棚倉町にあった国鉄バスの営業所長として濃密な1年間を過ごし、そこで学んだこと、身に付けたことが役に立った。棚倉町に感謝



の気持ちがある」とあいさつ。宮川政夫町長、佐川正一郎矢祭町長、宗田雅之鮫川村長もあいさつ。白河商工会議所の鈴木俊雄会頭の音頭で乾杯した。

引き続き来春矢祭町にオープンする「虫の里・福島奥久慈昆虫館」の代表を務めるアゲハチョウ研究家の中江

信さんが「奥久慈に家族で楽しめる虫の里を創る。世界トップレベルの数万頭の昆虫標本を収容する昆虫館。子どもたちに昆虫の面白さ、自然環境保全の大切さを理解してもらい国内外からの観光客、昆虫愛好家の集客、奥久慈地区の活性化、水郡線の存続を図りたい」と話した。また、在フランス大使館総料理長のセバスチャン・マルタンさんが「白河市、棚倉町、埴町、矢祭町には21年から毎年伺った。生産農家を訪ね、古民家そめやでのフレ

ンチコロボ、山本不動尊でのバーベキューフェスタなど素晴らしい出会いがあった。福島県の食材は美味しい。応援している」とビデオメッセージを寄せ、土産の生チョコとカクテル、シエフマルタンポイントについて説明。ニワトコ理事の藤田昭子さんが中締めし、参加者は美味しい料理と松茸ごはんを堪能しながら交流を深めた。

矢崎さんは今後の活動展開について「ニワトコは日本の伝統文化を次世代の子どもたちへ繋げたいと様々なイベントを開催してきた。来年はアゲハチョウ類研究家の中江信さんを代表にした昆虫館ができる。3月に仮オープンし、観光客が訪れる秋ごろグラウンドオープンしたいと考えている。古民家は伝統文化の宝庫。欄間の彫刻や組子細工など素晴らしいものが残っている。これまでいろんなイベントを開催したがみんながみんな好きなことばかりではない。そういう人たちがどんなものが好きか市場調査も兼ねてやっているのでも好きなイベントに来てもらえればいい。祖母が人よりいい結果を出すには真面目に人の3倍仕事しなさいと言っていた。それを守り頑張ってきた。退職後のエネルギーやノウハウは簡単に消せず、この力を遊びに変えようと思ひ子どもたちの糧になるようなことをやれたらと思う」と話した。

元日本国有鉄道棚倉自動車営業所に約15年勤務し、営業所長として赴任してきた唐池さんと1年間仕事を白河市東の鈴木博子さんから当時の路線バス運行の様子やエピソードを聞いた。

人で行っており、鈴木さんは車掌として切りとバス停の案内が仕事だった。路線は「白棚線（棚倉～白河間、一般車が通れない専用道路）」、「鮫川線（棚倉～岡田

經由鮫川村赤坂中野間）、「高野線（棚倉～漆草）」、「里白石線（棚倉～表郷金山駅、釜子經由里白石駅）」、「植田線（棚倉～石川經由いわき植田）」。

白棚線以外は砂利道で、鮫川線はほとけ坂と言う坂では大型バスが切り返ししないと通れない急カーブもあった。ボンネットバスも運行していた。朝夕は通勤通学のお客さんで利用者も多くいたが、日中の利用者は通院のお客さんくらいで少なかった。

白棚線最終バスは棚倉駅22時着。新幹線の最終に合わせていたため満員に近い乗車率だった。東京バスガールの歌文句ではないが酒に酔ったお客さんに絡まれたことも。また当時は女性が22時以降は勤務できなかったため駅に到着と同時に帰宅した。

車の普及によりバス利用者が減り、地方路線が廃止され、白棚線と観光業務が残

当時路線バスはツーマンと言って運転手と車掌の2



昭和47年4月に日本国有鉄道棚倉自動車営業所に入社。昭和47年4月に日本国有鉄道棚倉自動車営業所に入社。昭和47年4月に日本国有鉄道棚倉自動車営業所に入社。

バス利用者が減り、地方路線が廃止され、白棚線と観光業務が残



棚倉自動車営業所（昭和58年1月元旦）集合写真

り、鈴木さんはバスガイドとして勤めた。

